



大人も子どもも一緒に汗を流す

日本のNGOオイスカ

チャイナート県の 学校で植林活動

≡≡≡ 全日空が資金協力 ≡≡≡

全日空のタイでの植林活動は05年のブーケット、06年のチェンマイに続いて3年目。同社環境・社会貢献部の大槻みち子部長は、「地球温暖化が世界中で叫ばれているが、航空会社は二酸化炭素をたくさん出している。車と違い飛行機には代替燃料がないため、企業の社会的活動として植林を行なっ

8月27日、タイ中部チャイナート県のチャヤーヌキット・ピッタヤー中等高等学校で、全日空とNGO（非政府組織）のオイスカによる植林活動が行われた。

オイスカはアジア太平洋地域の発展途上国における農業開発、人材育成、環境保全を推進し、国連の最高諮問資格（ジェネラル）を有する国際ボランティア団体。日本全国で5700人の会員を持つ。

今回は日本からオイスカ愛媛のメンバーや学生32人が参加。村人約80人、学生160人、先生16人とともに、国花ゴールデンシャワーをはじめ、食用のマルメロ、タマリンド、竹など1999本の苗木を植えた。

「全日空のタイでの植林活動は05年のブーケット、06年のチェンマイに続いて3年目。同社環境・社会貢献部の大槻みち子部長は、「地球温暖化が世界中で叫ばれているが、航空会社は二酸化炭素をたくさん出している。車と違い飛行機には代替燃料がないため、企業の社会的活動として植林を行なっ

ていく。オイスカ愛媛の宮嶋祥式支局長によると、海外植林の目的は2つある。「もちろん植林と一緒に楽しむことが第一。参加した日本人が、タイの子どもたちと植林をして楽しかった、活動して有意義だったとロコミで広げてほしい。もうひとつは、なぜ遠い日本からたくさんの方がわざわざ木を植えて来るのか、子どもたちや近所の人疑問をもってもらおう」と話した。

参加した大学生4人は高校時代のダンス部の仲間。東京、横浜など離れて大学に通う4人が、夏休みの思い出作りにと集合した。

「植林はなかなかできない経験。言葉が通じなくても伝わるものがあるし、みんな笑顔でやさしい。地球のためになると思うと楽しい」とさわやかな笑顔で感想を話した。

参加した大学生4人は高校時代のダンス部の仲間。東京、横浜など離れて大学に通う4人が、夏休みの思い出作りにと集合した。

「植林はなかなかできない経験。言葉が通じなくても伝わるものがあるし、みんな笑顔でやさしい。地球のためになると思うと楽しい」とさわやかな笑顔で感想を話した。

参加した大学生4人は高校時代のダンス部の仲間。東京、横浜など離れて大学に通う4人が、夏休みの思い出作りにと集合した。

参加した大学生4人は高校時代のダンス部の仲間。東京、横浜など離れて大学に通う4人が、夏休みの思い出作りにと集合した。



大学生の仲良く4人組も植林を楽しんでいた



参加者の名前の入ったプレートも設置



植林活動中にプラスチックバンドが演奏で盛り上げる



参加者全員で記念撮影

左から全日空バンコク支店の太田冬彦副支店長、京都大学の柴田教授、同支店の片桐支店長、同社環境・社会貢献部佐藤麻子アシスタントマネージャー